

文教厚生常任委員会

平成20年11月13日から14日までの2日間、大分県豊後高田市と臼杵市において、調査を実施しました。

豊後高田市は、人口約2万5000人の市で、「健康づくり・子育て支援」について調査しました。

同市では市健康交流センター「花いろ」などの公共施設を拠点に取り組んでおり、中でも「花いろ」については平成14年に建設されたものです。現在運営は、市直営の保健福祉エリアと指定管理者運営の軽スポーツ・温泉エリアに分かれていますが、保健福祉エリアに健康・子育て担当課を置き、健康や介護予防、子育てのほか、世代間交流の場として、施設全体が幅広く活用されています。



健康交流センター「花いろ」

中でも健康づくりでは、運動習慣定着のため健康体操や筋力トレーニング等を行う「花いろ元氣アップ講座」等の取り組みに施設が活用されています。

また子育て支援では、子育て集いの広場事業「花っこルーム」を施設内に週4日、年間200

日以上開設し、親子が気軽に参加できる場として施設が活用されています。

所見

調査の中で子育て事業を当初検討するに当たっては、育児中の女性市職員でプロジェクトチームを組織したと聞き、施設の活用状況を視察してみて、その背景にある熱意と連携の必要性を感じました。

臼杵市は、人口約4万4000人の市で、

「学校教育全般」について調査しました。

その中で、「学校給食における地域連携の食育（給食畑）」については、平成10年に市長の強い指示を受けて始まり、農協直売所出荷者協議会会員の中で「給食畑野菜」として契約したものを同協議会を通じ供給されていました。

その指導は「ほんまもの里農業推進センター」が中心となり、関係課・団体で運営委員会を組織し進めていました。

また、「学校統廃合」については、平成17年に少子化に伴う教育力低下の対応策として対策委員会を行政主導で立ち上げ、1年間集中的に話し合い学校適正規模・配置の基本方針を出し、今後10年を前後期に分け、現在前期計画が進んでいました。計画を進める中では、複式授業解消のため講師を市独自で補充する事業にも取り組んでいました。

所見

食育では有機農業も推進しており、その中で地元で消費する食材は地元で生産するという「地産地消」の取り組みにはその必要性を感じました。

また、学校の環境問題は「合理化や財政面から考えず、子どもの学力向上や生きる力、豊かな心を育てるための手段」という考えで、「主役はあくまで子ども」という観点で進めていると聞き感銘しました。



臼杵市教育長から説明を受ける委員

調査の中でリーダーの存在、また連携の必要性を感じました。最後に、このような調査は、町・住民段階においても町政発展のために必要ではないかと考えます。